

韓国の児童書に関する調査報告

東京純心大学現代文化学部こども文化学科教授

大竹聖美¹

(アジア児童文学日本センター理事

韓国児童文学学会理事

韓国児童青少年文学学会理事)

1. 韓国の児童書の歴史・概要・出版状況等

1-1. 韓国の子どもの本の 100 年——韓国のオリニナル(子どもの日)100 周年、韓国児童文学 100 周年(2022~2023)

韓国の子どもの本の歴史は、崔南善(チェ・ナムソン/최남선)²が1908年に創刊した『少年(소년/소년)』³誌を視野に入れながらも、本格的には、1923年に方定煥(パン・ジョンファン/방정환)⁴が創刊した児童文芸誌『オリニ(어린이)』⁵を起点とする100年の歴史を刻んでいる。

日本の代表的近代児童文芸誌『赤い鳥』に比較される朝鮮初の本格的児童文芸誌『オリニ』を創刊した方定煥は、韓国児童文学の開拓者である。韓国の国民の祝日である5月5日の子どもの日(オリニナル/어린이날)を制定し、子どもの人格を尊重する<オリニ運動>を主導した韓国の子どもの父として、近代偉人の一人に数えられ、尊敬されている。

¹ <https://researchmap.jp/kiyomi-o>

² 1890~1957 年。初の朝鮮皇室留学生として東京に留学。東京府立第一中学校(現・東京都立日比谷高等学校)及び早稲田大学で短期間学ぶ。帰国時に印刷機を持ち帰り、初の近代雑誌『少年』を刊行。その後も複数の雑誌を創刊した。新体詩や唱歌を発表し、新知識の啓蒙に努めるなど、朝鮮における近代文学の先駆けを担った。

³ 1908 年 11 月~1911 年 5 月、通巻 23 号、崔南善主宰、新文館発行

⁴ 1899~1931 年。1919 年の 3・1 独立運動で活動したあと、東洋大学に留学。日本の『赤い鳥』と比較される児童雑誌『オリニ』を創刊。その他、5 月 5 日のオリニナル(子どもの日)創設、童話集発行、口演童話会主催など、児童の人権と民族のためにつくした。近代児童文化・文学の父として尊敬されている。

⁵ 1923 年 3 月~1934 年 7 月、通巻 122 号、方定煥主宰、開闢社発行
「オリニ」とは、子どもへの尊重の意味を含む呼称である。朝鮮近代化の過程で生まれた独特な民衆運動・民族運動の中で生まれた純韓国語。人格の尊重、抑圧された人権と民族の解放、公平な社会の実現を希求する未来志向の意味が込められている。

日本で関東大震災が起きた1923年は、方定煥が児童雑誌『オリニ』を創刊し、オリニナルの行事<オリニ運動>が朝鮮全土に広まった年である。それから100年が経過した2023年は、オリニナル100年、韓国児童文学100年の記念行事が韓国各地で大々的に行われ、現代韓国においても重要な価値観である<抑圧された人権の解放>と<子どもの自由な精神の解放>そして<想像力と多様な価値観が共生する未来志向の子どもの本>がアピールされた⁶。

1-2. 韓国現代絵本の35年——ソウル・オリンピックが開催された1988年、韓国初の単行本創作絵本が出版された

同じく2023年は、絵本の分野でも節目の年であった。現代韓国絵本の嚆矢とされる柳在守(リュウ・チェスウ/류재수)『山になった巨人 白頭山ものがたり(백두산 이야기)』【Y17-AZ2266】(邦訳は【Y18-4597】)(【】内は国際子ども図書館請求記号、以下同様。)が出版された1988年から35年を迎えたのである。この35年間の韓国絵本の到達点は、その前年の2022年に絵本作家スージー・リー(Suzy Lee/이수지)が国際アンデルセン賞を受賞したことすでに世界から認められていたところでもあり、韓国の絵本35年、韓国の子どもの本100年が祝われた2023年は、<韓国の子どもの本の世界化>がますます自信を持って打ち出された節目だったといえる。

思い返せば、国際子ども図書館が開館した2000年に、国際子ども図書館設立推進議員連盟等の主催で開催された記念イベントは、「オリニの世界から—韓国絵本原画展」だった⁷。この原画展は、『山になった巨人』をはじめとする90年代の韓国の子どもの本の成果が海外で初めて公開されたもので、画期的なものであった。これをきっかけに『こいぬのうんち(강아지똥)』【Y17-AZ2258】(邦訳は【Y18-N02-274】)、『ソリちゃんのチュソク(솔이의 추석 이야기)』【Y17-AZ693】(邦訳は【Y18-N01-44】)など、現在も韓国の子どもの本の代表作として読み継がれる作品が翻訳出版された。韓国では1984年に発表された国民的作品である権正生(クオン・ジョンセン/권정생)『モンシル姉さん(몽실 언니)』【Y8-AZ635】(邦訳は【Y9-N00-80】)が日本で翻訳出版されたのも2000年である。

韓国の子どもの本は、2000年の日本での原画展を機に世界に出始め、2002年(リュウ・チェスウ『きいろいかさ(노란우산)』【YU81-AZ194】、邦訳は【YU81-J421】)、2003年(イ・ホバク(이호백)『うさぎのおるすばん(토끼 탈출)』【Y17-AZ5431】、邦訳は【Y18-N03-H591】)と2年連続でニューヨーク・タイムズ最優秀絵本賞を受賞したり、2004年にボロ

⁶ 大竹聖美「方定煥と朝鮮少年運動協会の<オリニナル> — 1920 年代東京の「児童保護宣伝」(1921 年 4 月・11 月)、「児童愛護デー」(1922 年 5 月)と比較して—」東京純心大学紀要 現代文化学部 (27), PP.1-20, 2023. <https://doi.org/10.57503/0000000009>

⁷ 会期・会場:2000 年 4 月 28 日~5 月 13 日、国際交流基金フォーラム。2000 年 5 月 26 日~6 月 25 日、宮城県美術館。主催:国際子ども図書館設立推進議員連盟、国立の国際子ども図書館設立を推進する全国連絡会ほか

一ニャ国際児童図書展にてラガッツィ賞に入賞(ユン・ミスク(윤미숙)『あずきがゆばあさんとトラ(팔죽 할머니와 호랑이)』【Y17-AZ3765等】、邦訳は【Y18-N22-M310】)したりするなど、新たな時代を迎えることになった。2000年以降、韓国の作品が日本をはじめ、フランス・アメリカなどに版權輸出されるようになると、さらに意欲的で新しい絵本専門出版社が次々と設立され、若手新人作家が続々とデビューしながら作品も多様性を拡大していった。

そして、2020年に絵本作家パク・ヒナ(백희나)がアストリッド・リンドグレン記念文学賞を受賞し、2022年にはスージー・リーが国際アンデルセン賞を受賞、さらに2024年は、児童書の作家ではないが韓江(한·강/한강)がノーベル文学賞を受賞するなど、韓国の出版文化が世界的に注目されるに至っている。

1-3. 1990年創立・韓国初の子ども本専門書店とともに動き出し

た現代韓国子ども本の出版文化

2000年に東京都と宮城県で開催された韓国絵本原画展で出展された作品は、1988年出版のリュウ・チェスウ『山になった巨人』と康禹鉉(칸·우현/강우현)『さばくのきょうりゅう(사막의 공룡)』【Y18-AZ5404】(邦訳は【Y18-3450】)⁸のほかは、すべて90年代の作品である。

韓国におけるこのような創作絵本の出版は、リュウ・チェスウ、カン・ウヒョンの出版が先駆けであったものの、本格的には、1995年のキルボツオリニ社⁹(길벗어린이)創立から軌道に乗り始めたと言って良い。キルボツオリニ社は、当時まだ珍しかった国内作家による創作絵本の出版を手掛ける良心的な子ども本の専門出版社として、創立記念にクオン・ユンドク(권운덕)『マンヒのいえ(만희네 집)』【Y17-AZ692】(邦訳は【Y18-M99-33】)、イ・オクベ(이억배)『ソリちゃんのチュソク』、チョン・ユジョン(정유정)『おいしいよ！はじめてつくるかんこくりょうり(고사리 손 요리책)』【Y11-AZ316】(邦訳は【Y1-N13-L255】)を出版した。また、1995年は韓国国際児童青少年図書評議会¹⁰(Korean Board on Books for Young People、以下KBBY)の創立年でもある。

1988年に現代韓国創作絵本の扉が開き、1995年には国際児童図書評議会(International Board on Books for Young People、以下IBBY)の韓国支部としてKBBYが発足し、韓国の子どもの本の出版文化はいよいよ世界水準で動き始めることになる。以下、時系列で説明したい。

⁸ 1987年第5回野間国際絵本原画コンクールグランプリ受賞(『砂漠の恐竜』)、1989年第20回講談社出版文化賞絵本賞受賞(『さばくのきょうりゅう』)

⁹ 길벗어린이 <https://www.gilbutkid.co.kr/renew/>

¹⁰ KBBY 국제아동청소년도서협의회 <https://kbby.org/>

① 1990年、韓国初の子どもの本専門書店がオープン

現在のような、世界から注目される韓国の子どもの本の出版文化は、1990年にオープンした韓国初の子どもの本の専門書店<チョバン(초방)>¹¹が、その初期の段階で大きな役割を果たしたということを、まずは指摘しておかなくてはならない。

<チョバン>は、ソウルの新村(신촌)という、有名大学の集まる学生街にある、名門女子大学・梨花女子大学のすぐ裏手に開店した。韓国で唯一、海外の名作絵本に自由に出会うことができる場であったため、文化的欲求の高い若者や新しい文芸・アートを楽しむ幅広い層の人々が集い、その存在が注目された。

1990年の韓国というのは、その前年の1989年に海外渡航の自由化がようやく実現されたばかりという社会状況にあった。そのため、世界の良質な子どもの本に触れられる韓国初の専門書店<チョバン>の存在は、海外の自由な文化に繋がる新しい窓の役割を果たしたと言えるだろう。

<チョバン>では、海外の絵本を紹介し、販売しただけでなく、国内作家や編集者を育成するワークショップや、韓国独自の創作絵本の出版を後押しするための原画展が開かれた。

実際に、創設者の申京淑(신·ギョンスク/신경숙)が企画しアートディレクションした絵本『ソリちゃんのチュソク』、『マンヒのいえ』、『はじめてつくるかんこくりょうり』は、<チョバン>での原画展をきっかけに、キルボッオリニ社から出版された。キルボッオリニは、これらの絵本の出版をもって、90年代における子どもの本専門出版社としての確固たる地位を確立した。

② 1991年～1995年、子どもの本専門の良心的な出版社が次々と設立

筆者は、1995年を、韓国の現代の子どもの本の文化におけるターニングポイントとして注目している。

90年代は、現在では老舗というべき韓国を代表する良心的な子どもの本専門の出版社が次々と立ち上がった。この動きは、90年代に現代の韓国の子どもの本の文化の基盤が整ったといえる根拠の一つである。

1991年創立の<ポリ(보리)>¹²、1994年創立の<ピリョンソ(비룡소)>¹³、<チェミマジユ(재미마주)>¹⁴をその代表として挙げたい。これらの子どもの本専門出版社が90年代初頭に次々と出現しながら、国内作家のオリジナル作品の出版に向けた新しい努力が始められたのである。ただし、これらの出版社は実際には海外絵本の翻訳出版が中心で、韓国国内の作家

¹¹ ChoBang <http://www.chobang.com/>

¹² 보리출판사 누리집입니다 <https://www.boribook.com/>

¹³ 비룡소 <https://bir.co.kr/>

¹⁴ Jaimimage <https://www.jemimaju.com/>

によるオリジナルな作品の出版には至っていなかった。

そんな中で、1995年にキルボッオリニ社が創業され、『ソリちゃんのチュソク』や『マンヒのいえ』などの現在も読み継がれるロングセラーの韓国オリジナル作品が世に出た。その後も古典作品や代表作家の作品、あるいは民画などの伝統絵画を現代絵本として再創造し、韓国の独自の文化を追求していった同社による出版活動は、90年代韓国において画期的であった。

これらの努力の成果が、2000年に日本で行われた「オリニの世界から一韓国絵本原画展」であった。この原画展に出展された作品ならびに1990年代～2000年代初頭に日本で出版された韓国の絵本の過半数は、これら90年代前半に創業した子どもの本専門出版社から生み出された作品群である。

③ 1995年、KBBY発足

さらに、IBBYの65番目の支部として韓国支部・KBBYが発足したのも1995年のことで、このことも韓国の子どもの本の出版に大きな意味を持っていたと指摘したい。

KBBY発足に尽力したのは、1990年に韓国初の児童書専門書店〈チョバン〉を創立した申京淑である。彼女はKBBYの事務局長として実務を行いながら、金仁會(キム・イネ/김인회)を初代会長に迎え入れた。金仁會は、韓国固有の精神文化を研究する教育哲学者であり、博物館教育学でも著名な延世大学教育学部教授である。延世大学博物館では1996年3月に韓国初のIBBYオーナーリスト(IBBY Honour List 1994)巡回展示を開催している。これは、KBBYによる初めての子どもの本展示会でもあり、そのタイトルは、「世界の絵本わたしたちの絵本展」だった。

さらに、後述する〈オリニ図書研究会(어린이도서연구회)〉という、韓国の子どもの読書文化運動の市民団体として特筆すべき影響力を持った団体が、子どもの本の推奨目録を初めて発行したのも1995年であった。これらをもって、筆者は1995年を現代韓国絵本が本格的に動き始めた年と見なしている。

④ 1996年、ベルヌ条約加盟

1995年にKBBYが発足したことに続き、1996年、韓国は世界的な著作権条約であるベルヌ条約を批准した¹⁵。このことは、韓国の出版文化にとって歴史的な転換になったに違いない。児童書出版社の新旧交代が決定的になったのではないだろうか。

80年代までの韓国では、児童書と言えば訪問販売によるセット売りの全集が中心で、少年少女文学全集やディズニー絵本、漫画、雑誌、学習書などが独自の販売ルートで売られる商業主義的で大衆的、消費的なものだった。文芸的な出版の場合は、同人誌や自費出版に該当するものが多くを占めていた。

¹⁵ 日本がベルヌ条約に加盟したのは、1899(明治32)年。

しかし、1996年以降は、海外から正式に版權を購入し、海外ですでに評価の定まっている著名な作品を翻訳出版する時代に移行していったのである。国内の創作絵本の育成と、さらには海外にむけて韓国のオリジナルな出版物を輸出していくことを目指す、新時代の出版社を生まだす土壌は、このようにして90年代半ばに準備された。

⑤ 90年代韓国の子どもの本の文化の特徴

1990年代に勃興した韓国の子どもの本の文化は、子どもの本の専門書店や出版社の創業と同時にデビューした国内作家たちの意欲的な取り組みによって今日の世界的な評価に至っている。

この成長を振り返ると、出版社や作家の意欲的な創作活動の背景には、それを支え連帯する教員、司書、ストーリーテラー、読み聞かせ活動家、評論家などの子どもの読書運動にかかわる人々がたいへん熱心に活動を展開していることに気付かされる。その代表的な団体が、1980年創立の<オリニ図書研究会(어린이도서연구회)>¹⁶である。

<オリニ図書研究会>は、<童話を読む大人の集まり(동화읽는어른모임)>という集まりを催し、民主主義と自由な子どもの本の研究に情熱を注いだ。そして、良書を推薦する図書目録を作成し、町の書店や地域の図書館、児童館などで無料配布しながら韓国の子どもたちの読書活動に影響を与えた。この子どもの読書運動は韓国の民主化運動の流れと重なる市民運動の熱気を帯びており、韓国における子どもの本の文化の性質を理解するうえで欠かせない。

1995年に初めて発行されたオリニ図書研究会の推薦図書目録では、初の文民政権(軍人ではない大統領)¹⁷が1993年に実現したばかりの韓国において、自由で民主的な社会の実現を求めた子どもの読書文化の新たな指標が示された。

90年前後の子どもの文化の勃興の背景にある韓国の現代史を簡潔に振り返ると、民主化宣言が1987年、初めてのオリンピック(ソウル五輪)開催と夜間通行禁止令の全面解除が1988年、海外渡航の自由化が1989年、国連加盟が1991年、文民政権の誕生が1993年と、ほんの数年で行動の自由の面での大きな変化があった。

そうした社会背景をふまえて、1988年出版の『山になった巨人』のページをめくると、民族的で神話的な物語には、実際の歴史的な周辺民族との葛藤や、朝鮮戦争と南北分断、開発独裁、軍事独裁による人権侵害や抑圧とそれに耐えてきた韓国の現代史が表現されていることに気づく。過酷な歴史のトラウマと、そうした分断の克服と抑圧からの解放を訴えている。そして、さらにその先の和解と共生を目指す<統一志向の民衆文学>のダイナミズムと平和を希求する祈りが強く感じられるのである。

⑥ 2000年代以降——新しい図書館の設立と多様なプログラム

¹⁶ 어린이도서연구회 <https://childbook.org/>

¹⁷ 金泳三(キム・ヨンサム/김영삼)大統領。就任期間:1993~1998年

さて、90年代の国内の作家と良心的な子どもの本専門の出版社による韓国独自の創作絵本・児童書出版に向けた努力と、自由で民主的な子どもと大人の読書文化を育成する力強い市民活動は、2000年代に入ると、子どもの読書を中心に据えた新しい民間を含む多様な図書館の設立と運営へと展開していった。

2000年代に入って設立された新しい図書館を象徴する存在に＜奇跡の図書館(기적의도서관)＞と呼ばれる図書館がある。市民の募金とボランティア活動によって運営される子ども図書館で、最初の図書館は、2003年に全羅南道・順天市に開館した＜順天奇跡の図書館(순천기적의도서관)＞¹⁸である。＜奇跡の図書館＞は、2024年11月現在、全国18か所となっている。

また、韓国初の国立の子どもの本専門図書館は2006年に開館した＜国立オリニ青少年図書館(국립어린이청소년도서관)＞¹⁹である。

2010年代には、旧ソウル市庁舎(1945年までは京城府庁(1926年竣工))を改装した公共図書館＜ソウル図書館(서울도서관)＞(2012年開館)²⁰や、＜全羅南道・順天市立絵本図書館(순천그림책도서관)＞(2014年開館)²¹、江南の商業施設内にある＜ピョルマダン図書館(별마당도서관)＞(2017年開館)²²など、世界的にも注目され、世界各国から観光客が集まってくるような大規模で特徴的な図書館もオープンしている。

1-4. 現代韓国における子どもの本の文化ならびに研究に関する重要事項年表

現代韓国における、子どもの本の文化と研究(出版、読書、書店、図書館、学協会、研究書、評論集)に関する重要事項を以下のように年表として整理する。

「現代韓国における子どもの本の文化・研究」重要事項年表

*大竹作成、2024年10月改訂版

¹⁸ 매일 매일 책 읽어주는 순천기적의도서관

<https://web.archive.org/web/20140413132542/http://www.scml.or.kr/>

¹⁹ 국립어린이청소년도서관 <https://www.nlcy.go.kr/NLCY/main/index.do>

²⁰ 서울도서관 <https://lib.seoul.go.kr/>

²¹ 순천그림책도서관 <https://library.suncheon.go.kr/pblibrary/>

²² 별마당 아트 프로젝트 | 스타필드 코엑스몰

<https://www.starfield.co.kr/coexmall/starfieldLibrary/library.do>

年	重要事項	解説
1967 年	『児童文学概論』 【YZ-AZ109】(文 運堂)刊行	李在徹(イ・ジェ Chol/이재철)著。初の体系的韓国児 童文学史
1976 年	『児童文学評論』(児 童文学評論社)創刊	李在徹主幹。児童文学の評論と研究が本格的に始めら れ、現在も年 4 回刊行されている。通巻 192 巻
1978 年	『韓国現代児童文学 史』(一志社)刊行	李在徹著。韓国児童文学研究の基盤となる
1980 年	オリニ図書研究会 設立	読書文化を推奨する市民運動団体。1995 年より推薦 図書目録作成 https://childbook.org/
1984 年	権正生『モンシル姉 さん』(創作と批評 社)刊行	韓国児童文学の代表的作家権正生の作品。1990 年に TV ドラマ(MBC 制作)として高い視聴率を得た国民的 作品
1988 年	韓国児童文学学会 創立	韓国初の児童文学学会
//	柳在守『山になった 巨人 白頭山ものが たり』刊行	韓国初の単行本創作絵本
1990 年	子どもの本専門書店 <チョバン>創業	韓国初の子どもの本専門書店。代表は申京淑(KBBY 設立者) http://www.chobang.com/
1991 年	子どもの本専門出版 社<ポリ>創業	https://www.boribook.com/
1994 年	子どもの本専門出版 社<ピリョンソ>、< チェミマジュ>創業	ピリョンソ https://bir.co.kr/ チェミマジュ http://www.jemimaju.com/
1995 年	KBBY(韓国国際児 童青少年図書評議 会)発足	IBBY の韓国支部が設立される。初代事務局長は申京 淑 https://kbby.org/?ckattempt=2
//	子どもの本専門出版 社<キルボッオリニ >創業	クオン・ユンドク『マンヒのいえ』、イ・オクベ『ソリちゃん のチュソク』、チョン・ユジョン『おいしいよ！はじめてつ くるかんこくりょうり』が刊行され、韓国の単行本創作 絵本出版が本格化する https://www.gilbutkid.co.kr/renew/

年	重要事項	解説
1996 年	ベルヌ条約加盟	
2003 年	順天奇跡の図書館 開館	最初の＜奇跡の図書館＞。募金とボランティアで成り立つ民間の子ども図書館。2024 年現在韓国内に 18 か所ある https://web.archive.org/web/20140413172930/http://www.scm.or.kr/index.php
2006 年	国立オリニ青少年図書館開館	韓国初の国立こども図書館 https://www.nlcy.go.kr/NLCY/main/index.do
2007 年	韓国児童青少年文学学会(한국아동청소년문학학회) 創立	https://childlit.or.kr/
2010 年	韓国児童文学研究センター (한국아동문학연구센터) 開設	慶熙大学校中央図書館内 https://lib.khu.ac.kr/
2014 年	順天市立絵本図書館 開館	https://library.suncheon.go.kr/pblibrary/

2. 国際子ども図書館が所蔵している韓国の資料の評価、所見

国際子ども図書館が所蔵する韓国の資料について、2000 年前後の韓国の子どもの本の出版文化に関する知見に大きな不足はなかったように見受けられる。

2000 年頃までに刊行された韓国の児童書ならびに研究書のなかでも重要な書籍や重要な作家、作品、重要な企画(シリーズや文庫等)に関して目立った所蔵漏れも無く、神話・伝説・昔話などの基本書籍もおおよそ所蔵されていると評価できる。

近年の新しい書籍に関しても、特に海外の児童文学賞を受賞した作家など著名な作家の作品は網羅されている。そこで、現在国際子ども図書館に所蔵されていないが、韓国の子どもの本の文化を理解するうえで欠かせないと考える書籍を以下に指摘し、今後の蔵書検討のための提案リストとして別紙選書リストに整理する。

2-1. 初等学校国語教科書掲載作品

韓国の初等学校は日本と同じ 6 年間の義務教育である。大きな違いは、全国で統一された国定教科書を使用している点である。つまり、一種類の国定教科書を全国の同学年の子どもたちが一斉に使用しているのである。

国語教科書でいうと、各学年『国語』1 学期(カ、ナ＝上・下のような分類法)、2 学期(カ、ナ)、『国語活動』1 学期、2 学期、というように、合計 6 分冊となっている国定教科書を全国の同一学年の子どもたち全員が使用しているのである。3、4 年生の教科書などは一年分を重ねると 5 センチほどの厚みになる。

やはり、国定教科書に掲載されている作品は、韓国の教育政策としても、国民必読の昔話や神話、古典であったり、推奨すべき内容の現代作品であったりするので、韓国国民のコモンセンスを知る上でも見逃すことはできない。

また、出版社や一般書店においても、教科書掲載作品はセールスポイントとなっており、＜教科書掲載昔話集＞＜小学生が読まなくてはならない昔話＞＜教科書掲載作品セット＞などの企画販売も盛んで、しかもよく売れている。教育政策あるいは国定教科書と民間の自由な読書文化は、教育熱が高く、受験が過酷な韓国では密接なかかわりがある。

国際子ども図書館には、すでに有名な昔話や著名作家の絵本や重要な創作童話作品に関してもれなく所蔵されているが、教科書に掲載されているポピュラーな作品でも収集から外れていたものが一定数見受けられた。おそらく、文学賞受賞作ではなかったり世界的に著名な作家の作品ではなかったりしたためと思われる。一般的な韓国の国民が読んでいるスタンダードな作品として、初等学校国定国語教科書掲載作品を次のような項目で分類し、リストに整理した。

- ① 昔話(伝来童話)
- ② 創作童話
- ③ 創作絵本
- ④ 伝記・偉人伝
- ⑤ 韓国文化が分かる絵本

2-2. 赤ちゃん絵本・はじめてのハングル絵本

ABC ブックのような文字を教える本は、従来韓国で盛んである。韓国の文字はハングルであり、現代の創作絵本が隆盛してきた 90 年代半ば以降、ハングルに出会う意欲的な絵本は絶えず出版されてきた。

ハングルは朝鮮半島の歴史を象徴するものであり、民族文化の根幹であり、科学的で哲学的なオリジナルなものであり、韓国のアイデンティティーの中心にあるものである。国語教科書に掲載されている作品だけでも数種類ある。これらは、日本の公共図書館でも一部所蔵され

ているが、国際子ども図書館には所蔵されていなかったなので、ぜひ所蔵すべきと考える。

2-3. 童詩集

韓国は詩の国である。一般書店でも詩のコーナーが充実しており、詩集が良く売れ、読者層も幅広い。特徴的なのは、＜童詩(동시)>がジャンルとして確立していて、一般にも認知度が高いことである。大人の詩人が童心で書いた詩文学で、読者としては子どもも対象となっている作品と把握して良い。韓国児童文学の特徴とも言え、童詩集の出版も多く、国語教科書にも盛んに掲載されている。

2-4. 絵童話

韓国児童文学では、ジャンル論が盛んで、次のように明確に区別する傾向がある。

幼児絵本、創作絵本、ピクチャーブック(アート系・大人が好む絵本)、絵童話(童話スタイルだが、挿絵が豊富、低学年向け)、創作童話、伝来童話(子ども向けの書籍となった昔話)、童詩・童謡、青少年小説(日本でいう YA)などである。

なかでも＜絵童話(그림 동화)>の単行本出版が近年盛んで、小学生対象のベストセラーはこうしたスタイルの児童書が多い。日本の『錢天堂』も大変人気であるが、さらに文字数が少ない童話スタイルで、オールカラーの挿絵がふんだんに挿入された読み物が多く出版されている。国語教科書に掲載されているものをリストアップしている。

2-5. ベストセラー

韓国で多くの読者を獲得しているベストセラーであるが、何らかの理由で国際子ども図書館に所蔵されていない書籍が一定数見られた。日本でも翻訳されていたり、他の図書館でも所蔵されていたりする注目すべき書籍をリストアップした。

2-6. 研究書

研究書に関しては、古典的な重要書籍は所蔵されていたが、2000 年以降飛躍的に発達した韓国児童文学研究の成果物がほぼ所蔵されていないことが分かった。

リストには、学術的に重要なものを限定的にリストアップしたが、学術書だけでもさらに膨大

な書籍があり、いわゆる一般書籍まで目配りした場合、教育論、読書論、絵本論、文学評論、子ども文化論などが浮上し、なかでも重要な書籍といえるものだけをピックアップしても相当な書籍数になってしまう。こうしたコンテンポラリーな韓国の注目すべき書籍は、ほぼ未所蔵というのが現状である。

これらの近年の韓国の出版物は先進的な内容のものも多く、そのため早々に日本語翻訳され、書店に並べられたりもする。一種の K 文学・K 書籍ブームが存在していると言えなくもない。

韓国の書籍出版は活発であるし、日韓の出版文化交流も盛んで、興味深い書籍の件数も多いため、選書に関しては、日本語翻訳されたものも含め、広く目配りをする必要があるのではないか。

3. 選書のための情報

3-1. 作家・画家

特に重要な絵本作家(6人)・児童文学作家(1人)

*特に 90 年代以降活躍している代表作家とし、文学史上重要な近代の作家を除く(すでに所蔵されているため)。(順不同)

No.	名前	解説(①日本で翻訳出版されている代表作②受賞歴③HP 等参考リンク)
1	スージー・リー (이수지/ Suzy Lee)	① 『なみ(Wave)』【Y17-B19388】(邦訳は【Y18-N09-J261】) ② 2021 年 ボローニャ・ラガッツィ賞 フィクションの部 スペシャル・メンション 『わたしを 描く(雨露麻)』【Y17-AZ9111】(邦訳は【Y18-N24-R90】) 2022 年 ボローニャ・ラガッツィ賞 フィクションの部 スペシャル・メンション 『夏がくる(여름 이 온다)』 2022 年 国際アンデルセン賞画家賞 ③ Suzy Lee Books http://www.suzyleebooks.com/
2	パク・ヒナ (백희나)	① 『天女銭湯(장수탕 선녀님)』【Y17-AZ7052】(邦訳は【Y18-N16-L228】) 『あめだま(알사탕)』【Y17-AZ8153】(邦訳は【Y18-N18-L318】) ② 2012 年 第 53 回韓国出版文化賞 『天女銭湯』

No.	名前	解説(①日本で翻訳出版されている代表作②受賞歴③HP 等参考リンク)
		2013 年 昌原児童文学賞 『天女銭湯』 2018 年 IBBY Honour List 『あめだま』 2020 年 リンドグレーン記念文学賞 ③ Storybowl https://storybowl.com/?ckattempt=1
3	リュウ・チェスウ (류재수/ 柳在守)	① 『山になった巨人』 ② 1987 年 第 5 回野間国際絵本原画コンクール 佳作 『山になった巨人』 1987 年 第8回韓国出版文化賞(児童図書部門)
4	クォン・ユンドク (권윤덕)	① 『マンヒのいえ』 ② 2010 年 第 1 回大韓民国出版文化賞著作者賞受賞 『花ばあば(꽃할머니)』【Y17-AZ6840】(邦訳は 【EG71-L142】) 2010 年 第 3 回 CJ 絵本賞 『花ばあば』 2013 年 日本軍「慰安婦」有功女性家族部長官賞 2014 年 第 7 回今年の女性文化人賞-チョンガン文化賞 2018 年 第 1 回ロッテ出版文化大賞 本賞 ③ Kwon Yoon-duck https://mopilo.wixsite.com/kwonyoonduck
5	イ・オクベ (이억배)	① 『ソリちゃんのチュソク』 ② 1998 年 オリニ文化大賞 美術部門 『손 큰 할머니의 만두 만들기(手が大きいおばあさんの ギョウザ作り)』【Y17-AZ719】 2001 年 第 47 回全国学校図書館協議会青少年読書感想文全国コ ンクール課題図書(日本) 『ソリちゃんのチュソク』 2010 年 IBBY Honour List 『おはなしのポケット(이야기 주머니 이야기)』【Y17- AZ6498】 2020 年 国際アンデルセン賞画家賞 KBBY 推薦候補者 2020 年 国際アンデルセン賞 審査員推薦図書 『非武装地帯に春がくると(비무장지대에 봄이 오면)』【Y17-AZ6920】(邦訳は【Y18-N11-J189】)
6	チョン・スンガク (정승각)	① 『こいぬのうんち』
7	クォン・ジョンセン	① 『モンシル姉さん』 ② 1969 年 第 1 回韓国キリスト教児童文学賞 『こいぬのうんち』

No.	名前	解説(①日本で翻訳出版されている代表作②受賞歴③HP 等参考リンク)
	(권정생/ 権正生)	1975 年 第 1 回韓国児童文学賞 『クムボギのスモモの木(금복이네 자두나무)』 1995 年 第 22 回セサク文学賞 『神様は私たちの隣人です (하느님이 우리 옆집에 살고 있네요)』【Y8-AZ725】 ③ 권정생어린이문화재단 https://www.kcfc.or.kr/board/index.php

3-2. 研究者・評論家

特に重要な研究者・評論家

No.	名前	解説
1	イ・ジェ Chol (이재철/李在徹)	韓国児童文学研究の第一人者・学者 韓国児童文学学会初代会長
2	イ・オドク (이오덕/李五徳)	韓国児童文学評論の第一人者・教育者
3	ウォン・ジョン Chan (원종찬/元鍾讚)	韓国児童文学研究第二世代の筆頭・学者、評論家 韓国児童青少年文学学会初代会長

3-3. 児童文学賞

国立青少年オリニ図書館 HP にリストが掲載されている韓国内児童文学賞(11件)を設立された年代順に掲載する。受賞作品リストは以下 URL から確認できる。

* 国立オリニ青少年図書館 HP(国内文学賞)

<https://www.nlcy.go.kr/NLCY/contents/C10501000000.do>

No.	賞名	概要
1	小泉(ソチョン)文学賞 소천아동문학상	1965 年設立 姜小泉(カン・ソチョン/강소천)が韓国の児童文学に残した業績を記念するために設立された児童文学賞。毎年 1 回、優れた児童文学作品を選定して授与。2006 年からは新人賞を新設。
2	世宗(セジョン)児童文学賞 세종아동문학상	1968 年設立 児童文学の発展のために子ども対象の日刊新聞である<少年韓国日報>が設立。前年度の 1 年間に発表された児童文学の中から優秀作を選定し、毎年 10 月に授与。
3	尹石重(ユン・ソク)	1973 年設立 韓国童謡の父と呼ばれる尹石重(ユン・ソクチュ

No.	賞名	概要
	チュン)文学賞 윤석중문학상	ン/윤석중)の文学精神と児童愛護精神を称え、有能な児童文学作家への授与を目的に設立された。セサック会が主催する本賞は 1973 年から 1994 年までは「セサック文学賞」の名前で授与され、2005 年から「尹石重文学賞」として授与されている。国内の児童文学作家と海外にてハングルで児童文学活動をするコリアンおよび外国人も尹石重文学賞の対象。児童文学の全部門を対象にしている。
4	李周洪(イ・ジュホン)児童文学賞 이주홍아동문학상	1981年設立 李周洪(イ・ジュホン/이주홍)の文学精神を広く知らせ、彼の文学世界に光をあてる趣旨で設立された文学賞。2001 年まで毎年優れた児童文学作品 1 本を選定して授与していたが、彼が長く住んだ釜山広域市の後援を受けて 2002 年からその規模が大きくなり、授与分野が拡大した。一般文学作品に授与される李周洪文学賞、李周洪作品関連研究物に授与される「李周洪研究賞」と共に毎年 5 月に開かれる李周洪文学祝典にて授与する。
5	朴洪根(パク・ホングン)児童文学賞 박홍근아동문학상	1990 年設立 作家朴洪根(パク・ホングン/박홍근)が児童文学の発展のために 1990 年に設立した児童文学賞。2005 年・第 15 回まで実施され、しばらく中断されたが、2011 年に第 16 回からカトリック出版社が引き継いで実施している。前年 9 月 1 日からその年の 8 月 31 日の間に国内で発刊されたすべての児童文学作品(童詩、童話、童劇、児童文学評論)の中で最も優れた一作品を選定、朴洪根の誕生日である 11 月 11 日に授与する。
6	方定煥(パン・ジョンファン)文学賞 방정환문학상	1991 年設立 韓国子どもたちの父と呼ばれる方定煥の業績を称え、その文学精神を継承するために設立された。童詩、童話、評論部門に分けて文学史的価値と文学性に優れた児童文学作家に対し、慶熙大学校韓国児童文学研究センターと児童文学評論社が毎年 5 月に授与する。
7	黄金トッケビ賞 황금도깨비상	1992 年設立 児童書専門の出版社であるピリヨンソが設立した文学賞。子どもたちの情緒と感性を尊重する良い絵本、童話の本を公募、授賞して韓国の子どもの文学の発展を図り、その土台を用意しようとして作られた。毎年<絵本>部門と<童話>部門に分けて授与し、新人には登壇の機会を、既成作家には幅広い創作の機会を提供する。 <絵本部門>

No.	賞名	概要
		https://bir.co.kr/awards/황금도깨비상-그림책-부문/ <童話部門> https://bir.co.kr/awards/황금도깨비상-동화-부문/
8	馬海松(マ・ヘソン)文学賞 마해송문학상	2005 年設立 韓国最初の創作童話を書いたと馬海松(マ・ヘソン/마해송)の業績を称え、国内児童文学の発展を支援するために出版社<文学と知性社>が設立。未発表創作物である長編童話および短編の中から優れた作品 1 編を選定。 https://moonji.com/about/awards/mhs/
9	権正生(クォン・ジョンセン)文学賞 권정생문학상	2010 年設立 財団法人権正生オリニ文化財団 作家権正生の生き方と文学を継承する作家たちに、平和で美しい世の中をつくる生き方というものを文学で表現できるよう励まし、創作欲求を鼓吹することに寄与する目的で設立された。権正生没後 3 周年である 2010 年より権正生オリニ文化財団が授与している。 https://kcfc.or.kr/board/bbs/content.php?co_id=awards
10	丁塚瑛(チョン・チェボン)文学賞 정채봉문학상	2011 年設立 作家丁塚瑛(チョン・チェボン/정채봉)の文学精神を称え、短編童話の発展を支援するために設立された文学賞。丁塚瑛文学賞運営委員会と麗水 MBC が主管。国内文芸誌に発表された創作中・短編童話を対象にし、毎年 10 月に行われる丁塚瑛童話祭が行われる作家の故郷である全南順天市にて授与する。
11	昌原(チャンウォン)児童文学賞 창원아동문학상	2011 年設立 <韓国児童文学の首都昌原>を宣言した慶尚南道昌原市が主管。児童文学界の斬新な新人作家を発掘し、力量のある既成作家たちの創作活動を支援する。登壇 15 年以内の作家の最近 2 年以内に出版された児童文学作品を対象にし、隔年で開催される<昌原世界児童文学祝典>開幕式にて授与する。

3-4. 青少年文学(YA)賞

近年急成長している青少年文学(YA)の代表的な文学賞。(設立順・5 件)

いずれも未発表作品の公募展で、作家が賞主催の出版者からデビューするきっかけとなっている。

No.	賞名	概要
1	サゲジヨル文学賞 사계절문학상	サゲジヨル(四季)(出版社)による青少年文学賞(2003 年設立)
2	プルン文学賞 푸른문학상	プルンチェックドゥル(青い本たち)(出版社)による青少年文学賞(2003 年設立)
3	ブルーフィクション賞 블루픽션상	ピリヨンソ(出版社)による青少年文学賞(2007 年設立)
4	チャンビ青少年文学賞 창비청소년문학상	チャンビ(出版社)による青少年文学賞(2007 年設立)
5	文学トンネ青少年文学賞 문학동네청소년문학상	文学トンネ(出版社)による青少年文学賞(2010 年設立)

3-5. 主要な子どもの本の機関・団体と推薦図書リスト

主要な子どもの本の団体・機関と推薦図書リスト

No.	団体・機関名	概要・推薦図書リスト
1	オリニ図書研究会 어린이도서연구회	1980 年創立。韓国で最も影響力の大きい子どもの本と読書の市民団体。 https://childbook.org/ 推薦図書目録は HP で公開され様々な観点から検索可能となっている。 ●「オリニ図書研究会推薦図書目録」 https://childbook.org/book/recommend_list.html
2	KBBY(韓国国際 児童青少年図書評 議会) KBBY 국제아동청 소년도서협의회	1995 年創立。IBBY 韓国支部。 韓国の現代創作絵本の発展に大きく寄与してきた。 https://kbby.org/ ●「KBBY が注目する今月の絵本・児童青少年図書」 https://www.aladin.co.kr/events/wevent.aspx?EventId=275958
3	国立オリニ 青少年図書館 국립어린이청소년 도서관	2006 年開館。国立の児童青少年図書専門の図書館。 https://www.nlcy.go.kr/NLCY/main/index.do 読書支援資料として以下のような検索ができる。 ●「国内外文学賞リスト」 https://www.nlcy.go.kr/NLCY/contents/C10501000000.do

No.	団体・機関名	概要・推薦図書リスト
		●「司書推薦図書リスト」 https://www.nlcy.go.kr/NLCY/contents/C10600000000.do

参考文献

- ・ 大竹聖美「韓国児童文学研究文献解題—1967～2004—」日本児童文学学会『児童文学研究』第 38 号、pp.89-71、2005 年【Z13-625】
- ・ // 「韓国における児童文学研究・評論の歴史と現況」日本児童文学学会『児童文学研究』第 38 号、pp.70-58、2005 年【Z13-625】
- ・ // 「韓国児童文学研究文献解題—2005 年～2007 年—」日本児童文学学会『児童文学研究』第 41 号、pp.87-75、2008 年【Z13-625】
- ・ // 「韓国語圏児童文学研究文献解題—2008 年～2012 年—」日本児童文学学会『児童文学研究』第 46 号、pp. 69-57、2013 年【Z13-625】
- ・ 大竹聖美・池好順「現代韓国児童文学の特徴 —韓国初等学校国語教科書掲載作品を通して考える」東京純心大学『東京純心大学紀要. 現代文化学部』第 25 号、pp.25-39、2021 年【Z22-B256】<https://doi.org/10.57503/0002000122>
- ・ // 「国語教科書掲載作を通して考える韓国における外国児童文学受容の特徴とその変化 — 2015 年改訂版(第 7 次教育課程)韓国初等学校国語教科書と 1995 年改訂版(第 6 次教育課程)韓国国民学校国語教科書を比較して — 」東京純心大学『東京純心大学紀要. 現代文化学部』第 26 号、pp.17-27、2022 年【Z22-B256】<https://doi.org/10.57503/0002000010>
- ・ // 「韓国初等学校国語教科書(第 7 次教育課程・2015 年改訂版)と教科書掲載昔話 — 伝統文化尊重と現代社会対応としての多様性受容・ジェンダーフリーメッセージ — 」東京純心大学『東京純心大学紀要. 現代文化学部』第 27 号、pp.21-32、2023 年【Z22-B256】<https://doi.org/10.57503/0002000007>
- ・ // 「韓国の児童文学賞を起点に振り返る韓国児童文学史の理解 — 韓国児童文学史における姜小泉・尹石重・馬海松が果たした役割と、小泉児童文学賞・尹石重文学賞・馬海松文学賞受賞作一覧 — 」東京純心大学『東京純心大学紀要. 現代文化学部』第 28 号、pp.1-16、2024 年【Z22-B256】<https://doi.org/10.57503/0002000067>
- ・ // 「2015 年改訂版・韓国初等学校国語教科書を通して考える現代韓国児童文学」、JSPS 科研費 基盤研究(C)20K00522 研究成果報告書『東アジアにおける国語教科書と児童文学—東アジア児童文学史の 構築をめざして—』pp.18-26、48-52、2024 年 <https://doi.org/10.57503/0002000126>